

Program for Postgraduate Clinical training
National Hospital Organization, Ureshino Medical Center

研修医総合評価表



嬉野医療センター管理型研修プログラム

研修医氏名：

教育統括責任者／臨床研修管理委員会委員長：

行動目標研修評価表：医療人として必要な基本姿勢・態度

評価基準：a=十分出来る、b=できる、C=要努力、?=評価不能（該当するところに○印を）

		医療人として必要な基本姿勢・態度：評価項目	自己評価				指導医評価			
			a	b	c	?	a	b	c	?
患者－医師関係	患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な関係を確立するために	患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる								
		医師、患者・家族がともに納得できる医療を行うためのインフォームド・コンセントが実施できる								
		守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる								
チーム医療	医療チームの構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調するために	指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる								
		上級及び同僚医師や他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる								
		同僚及び後輩へ教育的配慮ができる								
		患者の転入・転出に当たり、情報を交換できる								
		関係機関や諸団体の担当者とコミュニケーションがとれる								
問題対応能力	患者の問題を把握し、問題対応型の思考を行い、生涯にわたる自己学習の習慣を身に付けるために	臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価し、当該患者への適応を判断できる（EBMの実績ができる）								
		自己評価及び第三者による評価を踏まえた問題対応能力の改善ができる								
		臨床研究や治験の意義を理解し、研究や学会活動に関心をもつ								
		自己管理能力を身に付け、生涯にわたり基本的診療能力の向上を努める								
安全管理	患者及び医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身に付け、危機管理に参画するために	医療を行う際の安全確認の考え方を理解し、実施できる								
		医療事故防止及び事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる								
		院内感染対策（Standard Precautionsを含む）を理解し、実施できる								
症例呈示	チーム医療の実績と自己の臨床能力向上に不可欠な症例呈示と意見交換を行うために	症例呈示と討論ができる								
		臨床症例に関するカンファレンスや学術集会に参加する								
医療の社会性	医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、社会に貢献するために	保健医療法規・制度を理解し、適切に行動できる								
		医療保険、公費負担医療を理解し、適切に診療できる								
		医の倫理、生命倫理について理解し、適切に行動できる								
		医薬品や医療用具による健康被害の発生防止について理解し、適切に行動できる								

経験目標：（１）医療面接（２）基本的な身体診察法

評価基準：a=十分出来る、b=できる、C=要努力、?=評価不能（該当するところにチェックもしくは○印を）

		評価項目	自己評価				指導医評価						
			a	b	c	?	a	b	c	?			
医療面接	患者・家族との信頼関係を構築し、診断・治療に必要な情報を得られるような医療面接を実施するために	医療面接におけるコミュニケーションの持つ意義を理解し、コミュニケーションスキルを身に付け、患者の解釈モデル、受診動機、受療行動を把握できる											
		患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活・職業歴、系統的レビュー）の聴取と記録できる											
		患者家族への適切な指示、指導ができる											
基本的な身体診察法	病態の正確な把握ができるよう、全身にわたる身体診察を系統的に実施し、記載するために	全身の観察（バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診断を含む）ができ、記載できる											
		頭頸部の診察（眼瞼・結膜、眼底、外耳道・鼻腔口腔、咽頭の観察、甲状腺の触診を含む）ができ、記載できる											
		胸部の診察（乳房の診察を含む）ができ、記載できる											
		腹部の診察（直腸診を含む）ができ、記載できる											
		泌尿・生殖器の診察（産婦人科的診察を含む）ができ、記載できる											
		骨・関節・筋肉系の診察ができ、記載できる											
		神経学的診察ができ、記載できる											
		小児の診察（生理的所見と病的所見の鑑別を含む）ができ、記載できる											
		精神面の診察ができ、記載できる											

経験目標：（３）基本的な臨床検査

評価基準：a=十分出来る、b=できる、C=要努力、?=評価不能（該当するところにチェックもしくは○印を）

	評価項目	自己評価				指導医評価			
		a	b	c	?	a	b	c	?
基本的な臨床検査 病態と臨床経過を把握し医療面接と身体診察から得られた情報をもとに必要な検査を、 ①自ら実施し、結果を解釈できる（必修項目）。 ②検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる（必修項目）。 ③検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる（必修項目外）。	② 一般尿検査（尿沈渣顕微鏡検査を含む）								
	② 便検査（潜血、虫卵）								
	② 血算・白血球分画								
	① 血液型判定・交差適合試験								
	① 心電図（12誘導）、負荷心電図								
	① 動脈血ガス分析								
	② 血液生化学検査：簡易検査（血糖、電解質、尿素窒素など）								
	② 血液免疫血清学（免疫細胞検査、アレルギー検査を含む）								
	② 細菌学的検査・薬剤感受性検査：検体の採取（痰、尿、血液など）、簡単な細菌学的検査（グラム染色など）								
	② 肺機能検査：スパイロメトリー								
	② 髄液検査								
	③ 細胞診・病理組織診断								
	② 内視鏡検査								
	① 超音波検査								
	② 単純 X 線検査								
	③ 造影 X 線検査								
	② X 線 CT 検査								
	③ MRI 検査								
③ 核医学検査									
③ 神経生理学的検査（脳波、筋電図など）									

経験目標：（４） 基本的手技

評価基準：a=十分出来る、b=できる、C=要努力、?=評価不能（該当するところにチェックもしくは○印を）

	評 価 項 目	自己評価				指導医評価			
		a	b	c	?	a	b	c	?
基本 的 手 技 基本的手技の適応を 決定し、実施するた めに	気道確保を実施できる								
	人工呼吸を実施できる（バックマスクによる徒手換気を含む）								
	心マッサージを実施できる								
	圧迫止血法を実施できる								
	包帯法を実施できる								
	注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保）を実施できる（中心静脈確保は必修項目外）								
	採血法（静脈血、動脈血）を実施できる								
	穿刺法（腰椎）を実施できる								
	穿刺法（胸腔、腹腔）を実施できる（必修項目外）								
	導尿法を実施できる								
	ドレーン・チューブ類の管理ができる								
	胃管の挿入と管理ができる								
	局所麻酔法を実施できる								
	創部消毒とガーゼ交換を実施できる								
	簡単な切開・排膿を実施できる								
	皮膚縫合法を実施できる								
	軽度の外傷・熱傷の処置を実施できる								
	気管挿管を実施できる								
除細動を実施できる									

経験目標：（５） 基本的治療法 （６） 医療記録 （７） 診療計画

評価基準：a=十分出来る、b=できる、C=要努力、?=評価不能（該当するところにチェックもしくは○印を）

		評 価 項 目	自己評価				指導医評価			
			a	b	c	?	a	b	c	?
基本的治療法	基本的治療法の適応を決定し適切に実施するために	療養生活（安静度、体位、食事、入浴、排泄、環境整備を含む）の指導ができる								
		薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療（抗菌薬、副腎皮質ステロイド薬、解熱薬、麻薬、血液製剤を含む）ができる								
		基本的な輸血ができる								
		輸血（成分輸血を含む）による効果と副作用について理解し、輸血が実施できる								
医療記録	チーム医療や法規との関連で重要な医療記録を適切に作成し、管理するために	診療録（退院時サマリーを含む）をPOS（Problem Oriented System）に従って記載し管理できる								
		処方箋、指示箋を作成し、管理できる								
		診断書、死亡診断書、死体検案書その他の証明書を作成し、管理できる								
		CPC（臨床病理検討会）レポートを作成し、症例呈示できる ※剖検所見会が当該ローテート中には行なわれないため別に評価する								
		紹介状と、紹介状への返信を作成でき、それを管理できる								
診療計画	保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診療計画を作成し、評価するために	診療計画（診断、治療、患者・家族への説明を含む）を作成できる								
		診療ガイドラインやクリティカルパスを理解し活用できる								
		入退院の適応を判断できる（デイサージャリー症例を含む）								
		QOL（Quality of Life）を考慮に入れた総合的な管理計画（リハビリテーション、社会復帰、在宅治療、介護を含む）へ参画する								

経験すべき症状・病態・疾患：1 頻度の高い症状、2 緊急を要する症状・病態

評価基準：済＝経験した（経験したことを確認した）、未＝経験していない（経験したことが確認できない）（該当するところにチェックもしくは○印を）

評価項目	自己評価		指導医評価		評価項目	自己評価		指導医評価	
	済	未	済	未		済	未	済	未
1 頻度の高い症状					便通異常（下痢、便秘）				
全身倦怠感					腰痛				
不眠					関節痛				
食欲不振					歩行障害				
体重減少、体重増加					四肢のしびれ				
浮腫					血尿				
リンパ節腫脹					排尿障害（尿失禁・排尿困難）				
発疹					尿量異常				
黄疸					不安・抑うつ				
発熱					2 緊急を要する症状・病態				
頭痛					心肺停止				
めまい					ショック				
失神					意識障害				
けいれん発作					脳血管障害				
視力障害、視野狭窄					急性呼吸不全				
結膜の充血					急性心不全				
聴覚障害					急性冠症候群				
鼻出血					急性腹症				
嘔声					急性消化管出血				
胸痛					急性腎不全				
動悸					流・早産および満期産				
呼吸困難					急性感染症				
咳・痰					外傷				
嘔気・嘔吐					急性中毒				
胸やけ					誤飲、誤嚥				
嚥下困難					熱傷				
腹痛					精神科領域の救急				

経験すべき症状・病態・疾患：3 経験が求められる疾患・病態（1）

評価基準：済＝経験した（経験したことを確認した）、未＝経験していない（経験したことが確認できない）（該当するところにチェックもしくは○印を）

評価項目	自己評価		指導医評価		評価項目	自己評価		指導医評価	
	済	未	済	未		済	未	済	未
血液・造血器疾患					動脈疾患（動脈硬化、大動脈瘤）				
貧血					静脈・リンパ管疾患				
白血病					高血圧症				
悪性リンパ腫					呼吸器系疾患				
出血傾向・紫斑病（DIC）					呼吸不全				
神経系疾患					呼吸器感染症				
脳（脊髄）血管障害					閉塞性・拘束性肺疾患（気管支喘息など）				
認知症（血管性含む）					肺循環障害（肺梗塞）				
脳（脊髄）外傷					異常呼吸（過換気症候群など）				
変性疾患（パーキンソン病）					自然気胸、胸膜炎				
脳炎・髄膜炎					肺癌				
皮膚系疾患					消化器系疾患				
湿疹・皮膚炎群					食道・胃十二指腸疾患				
蕁麻疹					小腸・大腸疾患				
薬疹					胆嚢・胆管疾患				
皮膚感染症					肝疾患				
運動器（筋骨格）系疾患					膵臓疾患				
骨折					腹壁疾患（ヘルニア）、腹膜炎				
関節の脱臼、捻挫					腎・尿路系疾患				
骨粗鬆症					腎不全、透析				
脊柱障害（腰椎椎間板ヘルニア）					原発性糸球体疾患				
循環器系疾患					全身性疾患による腎障害（糖尿病性腎症）				
心不全					尿路結石、尿路感染症、腎腫瘍				
狭心症、心筋梗塞					妊娠、分娩と生殖器疾患				
心筋症					妊娠分娩、流早産、乳腺炎				
不整脈					無月経、婦人科感染症、腫瘍、乳腺腫瘍				
弁膜症					前立腺疾患、勃起障害、精巣腫瘍				

経験すべき症状・病態・疾患：3 経験が求められる疾患・病態（2）

評価基準：済＝経験した（経験したことを確認した）、未＝経験していない（経験したことが確認できない）（該当するところにチェックもしくは○印を）

評 価 項 目	自己評価		指導医評価		評 価 項 目	自己評価		指導医評価	
	済	未	済	未		済	未	済	未
内分泌・栄養・代謝系疾患					感染症				
視床下部・下垂体疾患					ウイルス感染症				
甲状腺疾患					細菌感染症				
副腎不全					結 核				
糖尿病、低血糖					真菌感染症				
高脂血症					性感染症				
高尿酸血症					寄生虫感染症				
眼・視覚系疾患					免疫・アレルギー疾患				
屈折異常（近視、遠視、乱視）					全身性エリトマトーデス				
角結膜炎					慢性関節リウマチ				
白内障					アレルギー疾患				
緑内障					物理・化学的因子による疾患				
糖尿病、高血圧による眼底変化					中毒（アルコール、薬物）				
耳鼻・咽喉・口腔系疾患					アナフィラキシー				
中耳炎					熱中症、寒冷による障害				
副鼻腔炎					熱 傷				
アレルギー性鼻炎					小児疾患				
扁桃炎					小児けいれん性疾患				
外耳・鼻腔・咽頭・食道等の異物					小児ウイルス感染症				
精神・神経系疾患					小児細菌感染症				
症状精神病					小児喘息				
認知症（血管性含む）				神経系患者（前項） に記載を	先天性心疾患				
アルコール依存症					加齢と老化				
気分障害、うつ病					高齢者栄養摂取障害				
統合失調症					老年症候群（誤嚥、転倒、失禁、褥瘡）				
不安障害（パニック症候群）									
身体表現性障害、ストレス関連障害									

特定の医療現場の経験

評価基準：済＝経験した（経験したことを確認した）、未＝経験していない（経験したことが確認できない）（該当するところにチェックもしくは○印を）

		医療人として必要な基本姿勢・態度・評価項目	自己評価		指導医評価	
			済	未	済	未
緊急医療	生命や機能的予後に係わる、緊急を要する病態や疾患、外傷に対して適切な対応をするために	バイタルサインの把握ができる				
		重症度および緊急度の把握ができる				
		ショックの診断と治療ができる				
		二次救命処置（ACLS）ができ、一次救命処置（BLS）を指導できる				
		頻度の高い救急疾患の初期治療ができる				
		専門医への適切なコンサルテーションができる				
		大災害時の緊急医療体制を理解し、自己の役割を認識できる				
予防医療	予防医療の理念を理解し、地域や臨床の現場での実践に参画するために	食事・運動・禁煙カウンセリングとストレスマネジメントができる				
		性感染症予防・家族計画相談に参画できる				
		地域・職場・学校検診に参画できる				
		予防接種に参画できる				
地域保健・医療	地域保健・医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために	保健所の役割（地域保健・健康増進への理解を含む）について理解し、実践する				
		社会福祉施設等の役割について理解し、実践できる				
		診療所の役割（病診連携への理解を含む）について理解し、実践できる				
		へき地・離島医療について理解し、実践できる				
小児・成育医療	小児・成育医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために	周産期や小児の各発達段階に応じて適切な医療が提供できる				
		周産期や小児の各発達段階に応じて心理・社会的側面への配慮ができる				
		虐待について説明できる				
		学校、家庭、職場環境に配慮し、地域との連携に参画できる				
		母子健康手帳を理解し活用できる				
精神保健・医療	精神保健・医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために	精神症状の捉え方の基本を身につける				
		精神疾患に対する初期的対応と治療の実際を学ぶ				
		デイケアなどの社会復帰や地域支援体制を理解する				
緩和・終末期治療	緩和・終末期治療を必要とする患者とその家族に、全人的に対応するために	心理・社会的側面への配慮ができる				
		緩和ケア（WHO方式がん疼痛治療法を含む）に参加できる				
		病名・病態の説明に関する諸問題への配慮ができる				
		死生観・宗教観などへの配慮ができる				

総合評価： _____ 年 月 日

評価者サイン： _____